大正十二年六月十日印刷納本　大正十二年六月十五日發行

24

光

第二十四輯

大正十二年六月

◇托鉢者の家庭問題……西田天香
◇レヴオリユーシヨニストと托鉢者との話……松下吉衛
◇花壇作り……横山朱鳥
◇お光の意味に就てお尋ね申します……池田龍一
◇池田龍一様へ……西田天香

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願不二の光明によれる生活
費用供養されたる浄財

◇感懐……杉山扇溪
◇エドワード・ボックとエドワード・ダブルユー・ボック……野原耕二
◇古都の春……すゞき五ろう
◇下毛野行脚……松下吉衛
◇一燈園日記抄……まつした

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

謹告

一　本誌の殘本第三號以下全部、多少づゝありますから御希望の方はどうぞ御申越し下さい。

一　讀者諸兄姉にして御住所變更の際は是非御通知願ひます。

一　集金郵便は郵便局の極遠い處の方の外は、他に餘儀ない事情のない限り、成るべくお避け願ひ度うございます。

一　御送金は成る可く振替をお使ひ下さい。又普通の爲替の場合は書留にして頂きたうございます。

一　御前納くださつた誌代が切れた時には、その旨申上げますが、猶御送金のない場合は、甚だ勝手ですが、集金郵便を差し上げることにいたしますから、豫め御許しを乞うておきます。

一　本誌は現在、四千部刷らせてもらつてゐます。基礎を堅める爲に、許されるなら、あと千名の讀者諸兄姉を惠まれたいのです。もし本誌のやうなものでも幾分か道のお役に立つと思召しの方はどうぞ御知合ひに本誌を御紹介くださるやうお願ひ申上げます。

一　全國各地に於ける『光の友』の機關誌として、本誌をお使ひ願はうと存じますので、どうぞ御勧誘を

東京市外上戸塚五八〇玄光社(振替東京五四一七八番)内松下吉衛宛

に御通知煩はしたう御座います。

京都市柳馬場三條下ル　宣光社

振替大阪五九八三九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

托鉢者の家庭問題

西田天香

『一燈園生活では家庭が持ちにくい』といふことを大方の人が申します、同人でもさう思ふかも知れぬ、實際の問題にぶつからない間は、私が一燈園でも家庭が持てますといふ言葉を信じて、持てさうな氣もしてゐるものゝ、さて實際いよ〳〵女房を持つとかいよ〳〵嫁入らねばならないとか、又は親がたよつて來たとか、兄弟が身を任せに來るといふ樣なことになりますと、どうしてたよつて來た人をあづかるのか、親しい夫婦の住まふ場所はどこにあるのか、などと考へ出す時に本來無所有の生活であるからしてどうしてよいものかと行詰る。考へれば考へる程行詰る、そこで一燈園生活では家庭が持てぬといふ考を起します、無理もないことです。

私は長い間この問題について考へもしました、實際に女房を惠まれましても、この生活を續けて居ます間にはたえられないやうな氣持がしたり、又これでは家庭らしくもない、といふやうな事もあつたりしましたが、終局に於てはやはり大丈夫一燈園生活でうるはしい家庭が持てるものだといふ事を證明したつもりで居ります。

それで、こゝにはそれらについての事を書いて見たいと思ひますが、先きに斷つておきたい事は、家庭に限らず凡そ一燈園生活は、やつて見ない前には、危いやうに思はれるが、やつて見たあとから眺めると、成程と合點する事が多いといふ事です。家庭といふ事も、初めに此樣な家庭と豫感してはいけません、危なさうに見える事が危くないのが園の生活でありますから、家庭の問題も同じ事で、そんなものが家庭であるかと初めは想像しても、出來上つて見ると、想像以外の危なさうに見えた家庭が存外落ついたものであるといふ事を發見します、かうして凡ての豫感をすてゝ讀んで見て下さい。

もう一つ普通の家庭といふものが落付いてある樣で存外落付いてゐないといふ事も前提しておかねばなりません。普通の家庭が不安であつて、そこから飛出して來た一燈園生活であるといふ事を忘れてはならぬ。ともすると前の耐えきれな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

い家庭をすて、來てゐながらその家庭を戀しがる事があります、それは無理です。前の家庭が嫌さに來たから今度の家庭は思ひ切つた變つたものでなければならぬ、初めはそんなものが家庭かといふ程のものでもやつて見なけりや分らんのです。無理かもしれんが新らしい家庭の根本の落付は矢張十字街頭です。けれども人がもし人に愛される生活である以上、その人に來て貰ひたい家は到る處にある筈です。そこに一人が托鉢します、御飯を供養されます、そうして室を與へられます。その人が若し獨身である時には獨身に相應しい室を惠まれます、若し又夫婦者である時にはその人がその家に最も必要である時には、どうぞお二人とも來て下さいといふ事になる事もあります。狹い家やら、一人の人より要らない時には、さう云ひたくても事情が許さぬ事もありますけれども二人とも托鉢して欲しい家が澤山あるものです。諺に『出せ顏』といふ事がある、店を出す迄に買ふ人があるだらうかと心配はせいでも出して見るがよい、出せば買い手がそこにあるといふ意味です。夫婦者を托鉢さすと云ふ家があればよいけれども案じないでもない、夫婦者の托鉢が出來ればそこに又それを望む人が出ます。無かつたら無いまでのこと、有つたら有つた時のこと、それにも堅くならぬがよい。家庭を持ちながら、幾年も留學する人がある、自分の國の昔の商人は嫁を貰うておいて、家におき、直ぐに又水盃して遠い國へ出稼ぎすることが習慣になつて居りました、同人の家庭が一つの家に許されないかとて悲觀すべき事でもない、況んや許されがちのことでありますもの。

私の法喜(カナイ)が初めある西洋人に托鉢しました、その人は獨身者で、たつた一人の女中が欲しい云ふのです、私は當番として、この女性をやりかねました、それはどんな確りした女でも、たつた一人の西洋人ですから、どんな間違ひが起つても困ります。それで法喜(カナイ)に行つて貰つたのです。法喜(カナイ)の室はたつた三疊の裏所です。西洋人は都合のよい事は、時間から時間まで働きさへすれば、後は自由です。そこの家を留守番する事だけの條件で、あとは自由です。一燈園へ歸へる事は出來ません、それで私は時々そこへ行きました。西洋人には、これは私の女房ですと云ふておきました。普通の考から申しますると、私もどうかかうか一軒の家ぐらゐ持てない事もない身です。了解しない西洋人の家に托鉢してます法喜(カナイ)の處へ時々行つて、用のない時間丈けは家庭の氣分を持たねばならぬと思ひますと、つまらない感じをしたり、又そんなものが

何の家庭かと云ひたい氣持もいたしますが、一燈園氣分で眺めて見ますと全く自由な、さわりのない、然も二人ともよろこばれとほしで許されて居る風流な家庭でありました。大きな家を持つて、その家の爲めに嫌(イヤ)な事をするよりは、許された小さい室に自由な身體をやすませてゐるのは何程でもよい事が出來る餘地を與へて落付いたものです。法喜(カナイ)が泊つて來なければならない托鉢でない時は私の托鉢先へ歸るものとしておきます。廣い室やら澤山な設備を要しません。二人が休息することさへ出來ればよろしい。これを單位といたします。數ある托鉢さす中にかうした家のない事はないと思ひます。私はどなたでも自分に離れ〳〵でも差支へないと思ふ人である限り、二人がゆるされて托鉢する家を見付ける事は雜作もないと思ひます。すれば二人になつても一人が托鉢してる氣持を傷付けずに出來るものといふ事は申せると思ひます。

次にその家庭に或は二人の親類が訪ねてくるとか、友人が遊びに來るとかいふ事に不自由をしないかといふ心配もありますが、これは一括してゆるされるまではせなかつたらよろしい。本來別の生涯に立つた時に、さうした親戚や友達の訪問を前の樣に扱はねばならぬ事はない筈です。家庭を持つといふ事は新しい生活が古い家庭になるのでなうて、新生涯の延長です、棄恩入無爲は新しい家庭でも同じ事です。たゞ道を求めて來るなれば休む處もない家庭、茶を出す事も出來ぬ新世帶、そのまゝが求めらるゝものとなるのです。茶も出せませぬといふ事を見て歸へる時に、それが求めた道になるのです。ゆるされてどれ程大きな道場をあづからねばならぬことになるかもしれないけれど、その道場も、單位の狹い室もその尊(タウト)さは一つです。新しい家庭はあらゆる複雜な家庭を整理する事の出來るものでありたい、悩みある多くの家庭がこの極めて貧弱さうに見える、あるかないか分らぬやうな家庭によつて整理されてゐります。そこに興味も尊さも無限にあります。

花園の古寺へ關山國師がゐられた時に實の兄さんが訪ねて來て、あまり屋根が漏れるので、わしが金出して屋根を葺かうと云はれたら、關山さんがニタ〳〵笑つて、あなたの金では私の寺の屋根は葺けませんと斷られたさうです。茶一杯入れられない、腰かけの樣な家庭でも、その見識を持つ時にどんな大きな別莊よりも大きい筈です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

子が出來たらどうするかと心配もしませうが、子を孕んで行き處のない人すら私はあづかつて產んで貰ひ、それが無事に園で育ち、今は家庭を持つてゐられる事實のある以上は、先ぐりに心配せいで、子の出來るまで眞面目に托鉢なさるがよいと、云ひはなして見たい。產れた子はお光の子です。手前の子じやと思はぬがよい。一生懸命に托鉢しておきさへすれば、あづかつたお光の子を放つておけとは云ひやしません。病氣の時にやすまされるのと同じに、子には子の福田があります。かへす〴〵も自分の子じやとは思ふてはならぬ、お光の子の保姆と思ふがよい。幾人も子が出來たらといふかもしれぬ、そこまで考へる事はあまりに前の生涯の匂ひが過ぎる。いかなければいかん時のこと。私はお光任せにしやうと思ふ。

園には今、とにかく百六七十人の人が來てゐて下さる。園の建物は三十人位よりは入れない、けれども野宿したものもない、遊んでゐれば金も儲けないから寢る處も無からうが、それからそれへと父の家にはすまゐ多しとなつてある、大切な事は所謂、明日の事を思ひ煩ふ事勿れであつて、今の時間を大事に托鉢すればよろしい。無理な事してゐてさへまだ皆が家の下に寢てゐます。お光に捧げた家庭が、無くてならぬものを與へられぬ筈がない。私はそれを深く信じます。

これは所謂單位です。人がその生活を慕うてこちらからも來てくれ、あちらからも來てくれとなる時に、どんな大きな家をあづからねばならぬ事になるかもしれぬ。さういふ家のない事を心配はせぬが、さうした家にゐる內容を持つてゐるかどうか、といふ事を心配したい。要するに自分の心にあり、又身にあり、生活にあります。この三つをはつきりさへしてゐれば、ゆるされる場所の事は少しも心配はないと思ひます。

明日の事は知らず、私は二十年の經驗から少しも話しを大きうせず、正直に考へてこれ丈の事が云へます。一燈園生活で屹度家庭は持てます、而もうるはしい家庭が持てます、普通の眼で想像しては見當がつきますまいが、やつて見たら分ります。信じて行く事です。一燈園生活で家庭が持てるかなど〻考へますことは、ぐらついてゐるからです、信不退であればよろしい。歩めば道が開いて來ます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

レヴォリューショニストと托鉢者との話

松下吉衛

K　あなたはMさんで。よくお出でくださいました。私はKといふものです。よほどお待たせ申しましたらうか？

M　いゝえ、つい今しがた來たばかりです。

K　あなたが今晩いらしつてくださることは、Yさんからのおはがきで承知してをつたのですが、友人の就職のことで、そちこちしてゐたものですから、おそくなつてしまつてすみませんでした。ご迷惑でなければ、今晩はごうぞごゆつくりなすつていつてください。

M　はあ、ありがたう。

K　私共の方はまだ何にもまとまつてゐないのですから、ほんとにおはづかしい次第です。

M　いや、僕達かつて同じことです。態度だけは徹底的に妥協を廢してはつきり看板を出してゐるわけですがね。

K　こゝの集り――G社といふのは、だいたいK會關係のものとI園關係のものとの合體したいのりとでもいはれませうか。『申合』をお目にかけませう。こんなになつてゐるのです。

M　なるほどゞ僕達とは少しちがつてゐるやうですね。

K　一番お目立ちの點は？

M　さうですね。あなた方の實際生活を詳しくおきゝしたうえでないと、判斷に苦しみますが、直感的にこんな氣がします――懺悔心の有ると無いと、若しくは多いか少ないか、といふことではないでせうか？

K　私もそんなふうに考へてゐました。

M　僕達にも懺悔心が丸つきりないといふのではないがそれに專らになつてゐるわけにいかんのです。組織悪の存在をゆるしておいたのでは、いくら精神運動が盛んになつても、社會の改造は期しがたいと思はれましてね。

K　I園の生活――誰いふとなく托鉢々々と呼びならされてゐますが、世間でいふ意味の精神運動とは、全く別な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ものです。所有たないこと、、賣らないこと、が、托鉢者の信條になつてゐますから、資本主義社會の生活基調とは對角線的にくひちがつてゐるわけで、一部の人々の批評――托鉢は奴隷道徳であるの、資本家の殘飯に隨喜する下種のしわざであるの、乃至、勞働運動の氣勢を殺ぐ時代錯誤の甚だしきものであるのといふ非難は、的はづれだといふ自信をもつてゐます。

M　僕も、去年、巣鴨監獄に御厄介になつてゐた時『懺悔の生活』は讀みました。――あんな時でもなくつちや、落着いてあゝした本は讀む餘暇がないので、聖書や何か四五册いれてもらつたのでした。――あの本で、たいがい、あなた方のなさつてゐることは、見當づけてゐたんです。僕も、實は、眞宗坊主のはしくれなんでして、まだ郷里の住職になつてゐる筈ですよ。宗教のことも、そんなわけで、まんざら關知しないわけではないのですが今のかたちの托鉢は、自他の個人的煩悩を斷ずるいのりとしてはずゐぶん獨創的であり又よく時代の要求にも適合してゐる勝れたものと思はれるけれど、あれだけではどうも、組織惡に對して、二階から目藥の感がしますね。

K　なるほど。

M　人ひとりが救はれ、甦るといふことは、それはたゞごとではありません。僕もそれは信じます。その限りに於いて、托鉢は、恐らく、永遠の存在理由をもつてゐませう。しかし、一人々々が悔改めることは必ずしも社會組織の改革を結果しますまい。個人が集つて出來てゐる社會にちがひないのですから、しらみつぶしのいき方で何とかなる筈でもありませうが、組織とか制度とかいふものは、個人とは別な存在であり力であつて、之を支持する權力階級が――少なくともその過半の力が、ある事情で從來とちがつた方向に働くか或は新興の他の力によつて制御されるかしない限り、かつて改革されたといふ例しはないでせう。歴史のどのページをひらいても、いつの時代いづれの國にあつても、教化によつて權力階級の少なくとも過半が悔改めたといふことを聞かないのですから、組織惡の問題については、私は、餘り多くを托鉢に望めない氣がします。

K　その點は、私も、同感です。實際、托鉢して見ますとこんな行詰つた世にも、有所たない賣らない生活――人天の供養に許されて生きるといつたやうな境涯が、よしかすかながらも實證することが出來るので托鉢者自身に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

は可なり充實した氣持がいたします。これこそ祖師開山達が妥協を排してしつかり握つてゐられた天地であり如何に社會の組織が改革されやうと存在理由のなくなる筈のないもの、やうに思へます。

又、托鉢者は、動機は種々ありませうが、皆、罪惡の自覺から立つてゐますので、自然、何事にも愼しさを失はず居所は常に下座と心得てをり、不作不食を清規としてゐますから、仲間同志もわりに美しくやつて行けてますし、迫害にも窮乏にも堪へられないことはありません。

この境涯をくゞつたものが社會運動にかゝれば、托鉢の精神を組織悪根絶のいのりに專らにすれば、きつと、何ものかゞ生れずにはゐないといふ確信が、此頃になつて強く私にわいてきてゐるのです。あなたにお會ひしたくなつたのもこの爲めでした。

M　さうでしたか？それはありがたう……………

K　ぶしつけなおたづねのしやうですが、生活費はあなたの方ではどうなさつてゐます？

M　これはほんとうに問題ですよ。色彩を鮮かにすると、なか／＼普通では就職口も得られませんし、あなた方にならつて托鉢すればつて尾行つきでは一寸ぐあひが悪いでせう。

今、頭株の連中は、たいてい、原稿生活をしてゐるのです。これは、しかし、誰にでも出來るといふわけにいきませんから、みいりのよい連中のところには、自然、多くの仲間が集つて、仕事を分けてもらひなどしては、何とかやつていつてゐるのです。

中には隠れた庇護者から援助を受けてゐるものもあります。又ある種の人になると殆んど當然の權利として資本家から無償で獲得してくる流儀のもあるやうですが、これは、僕には與することは出來ません。ロシアの若いレヴォリューショニストの間には、一時、貴族の娘を愛人にして愛人に貢いでもらふことが行はれたさうですねよいかわるいか知りませんが。

K　ロシア人はロシア人らしいことをやりますね。

M　僕自身の生活を申しませう。僕の生活は、だいたい、三分されてゐるといふことが出來るでせう。第一は生活費を得るためで、原稿を書いたり飜譯したりしてゐます。第二は社會運動の闘士たる資格を養ふための勉强で、第三が實際の運動です。ですが、第一も第二も、第三の實際運動にくひこまれがちで、ほんとに體が二つあればと、始終、思はせられます。僕のこころにも仲間のものが多少は寄つてゐたりするので、さういはれるものですから

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

あの×××で農地を解放したA氏から月々いくらかづゝいたゞいてもゐます。

K　御苦勞のことです。それは、どうして大へんでせう、高く揭げて出なさつてゐるのですから。…………家族があること尙更やゝこしいやうですね。

M　僕にも妻子がありますよ。

K　私も鄕里(くに)にはをるのですが、私の不信のために、どうも、わづらはされがちでいけません。

M　まじめに考へると、全く家族は問題です。人間つて案外やくざなものですからね。……しかし異性なしでは淋しすぎるし、困つたもんだ。

K　ほんとに、困つたもんです。

M　托鉢なさつてゐても、さうでせうか？

K　年中、緊張してゐられるといゝんですがね…………どうもさういふわけにいきません。私など愛慾についてはまだ〳〵、とてもだめです。

M　僕など、もとより、なつてはゐませんが、妻が僕の立場を理解してくれてゐるので、わりに助かります。

K　それは何よりの仕合はせです。それだと運動にも油がのつてきませう。……さうならなければうそですね。

M　一所不住――きまつた家をもたないとすると、托鉢者の家庭といふのは、どうなんです？

K　夫婦がいつも一とこころにくらすといふわけには事實まゐりません。もと〳〵世間普通(なみ)ではない生活なのですから、これは、まあ、いたしかたないとして、子供のことだけは、私が特別子煩惱のためなのでせう、ちよつと、ひつかゝりになつていけません。……子供はそのまゝでいゝんですもの。精一ぱいの遊びをしてゐる子供達を見てゐますと何も問題はなくなつて涙ぐましくさへなります。あんな罪のないものを、いけにへにするのは堪へにくいのですね。子供だけは、さもしい思ひをさせず、ゆたかにのんびりと、そして生き〳〵しく育てたいと思ふんです。自分が產んでみれば、出來るだけよく育てることが、人類への貴い奉仕の一つといふ氣もいたしますし……これは、あながち、囚はれた愛着ばかりではなさゝうです。非常の場合には、天理敎祖のやうなことも爲し得なくはないとも思はれますが、常備、抵抗力の弱い幼な子を衞生上の危險に曝露したり、學ぶべき時期に學ぶべきことを學ばせなかつたりすることは、何だかすまないやうに思へてなりません、弱いといへば弱いにちがひないのですが。子供ぐらゐは、何とかして早く公の取扱を受けることが出來るやうにしたいものですね。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

M　あと十年お待ちなさい、あと十年！

K　十年でいけますか？

M　なに、大丈夫ですとも。この一年間の進みかたつたら目まぐるしい程ですよ！それは、何にでも變態現象はまぬかれません。少數の似而非なる者の存在など問題にしなくつて差支ないです。大勢はもう定まつたと見られます。各種の團體の個性を認めつゝ聯盟でいつてるんです。ぐんぐん伸びてゐますよ、それは氣持がいゝほど。この進みかたでのすなら、十年！あと十年できつと大丈夫ですとも。

K　ずゐぶんな自信をおもちですね。

M　錯覺してはゐないつもりです。本壘の堅めは勿論、學生とか農村青年とか相手の青年運動も此頃急かに底力がはいつてきたし、それに僕達として見逃してならないのは、××人が續々××へ入國しつゝある現象です。彼等の多くは獨身者であり浮浪生活者であり、たいてい年若で勞苦と窮乏になれてをり、××に對して燃えるやうな××的精神を懷いてゐる者が少なくありません。今でもその數は××萬を下るまいと思ひます。一度、彼等が彼等自身の與へられた位地を正しく見つめる眼をひらかせられ、その力を自覺して起つなら、何物かを生まずにはゐますまい。さうなつたら、此頃だいぶ問題になつてきてゐる××社の運動よりか、この方がよほど有望のやうに僕には感ぜられます。

K　なるほどね。

M　それは××の××方針つたらまるでむちやですからね常識ですぐわかる話ですが、貨幣××にしたところが、あれぢや、貧乏人は木の根つ子をしやぶつたつて、やつていけつこはありませんよ。……どしどしその方針でやつてもらつた方が、僕達の理想を實現するのには、結句、好都合なわけだけれど、少しひどすぎますさ！

K　日本も多事になつて來ましたね。

M　これからですよ、ほんものは。

K　…………更けてきたせいか、うすら寒いぢやありませんか？何かあつたかい飲料でも差上げませう。

M　はあ、ありがたう。

K　さうさう、夕飯がまだゞつたんでした、私は。あなたにお待たせしてはと思つて、途中で食パンを買つてきたんでしたつけ。…………いかゞです、一つおとりになつては。私も失禮します。

M　はあ…………僕も今夜は急いできたんです。昨晩、僕のところの二階で、仲間のもの三四十人が寄つてSH社

の人にきてもらつて運動の模様をきいたり、それについて意見の交換をしたりしてゐたんです。何でも××がいつのまにか隣家の二階を占領してゐて、こちらの様子をうかゞつて、事態容易ならずこでも考へたのでせう、散會間際に、警部補に率ゐられた三十人近い正服巡査にふんごまれて大ごた〳〵しましたよ。×××が『巣鴨式でやれ！』こいふ命令なのでせう。××等は土靴で二階へまで押しあがつてきて、別に抵抗もしないものを、梯子段から突落したり髪をつかんだり、びんたをくれたりするんです。こつちも、自然、昂奮してくるわけですが、むだな犠牲は拂つたつて仕方がありませんから、極力、僕は皆をなだめたんで、大した間違ひもなくすんでよかつたです。それでも、僕達は××をくひましたよ。つい先刻かへされたばかりなんですが、内へちよつこ寄つてすぐこちらへまはるやうにしたんです。

K　さうでしたか、すみませんでしたね、そんな御混雑のこころを。

M　なに、××ぐらゐ平生ですから、別に何こも思つてゐませんが、僕には××がついてゐるのでうるさいんです。今夜も御迷惑かこ思つて×××きました。そんな便宜をはかつてくれる或×××があるものですから、こんな時には大へん都合がよいです。

K　今はあまり××をつけない方針に變つたこか聞いてゐますが、さうでもないのですか？

M　一時に比べたらさうでせう。東京では、今……こうつこ……××人ぐらゐなものですかね。

K　私の××も××事件のあつた年以來×××前までつけられてゐたのでした。あなた方こは或はちがつた意味であつたかも知れませんが、こにかく、變つてゐるこいへば可なり變つてる生活なのですから。

M　今の社會で、ほんものをはつきり出せば、きつこそんなここになりませうよ。

K　私共の生活は、こもすれば、大事がられすぎて、こんだ高あがりになつてゐるここがあります。こにかく修行者こいふここにこられてゐますから、おろそかな敎へを受けないのが普通です。それは、長い間には毒血をのまされたこいふやうな經驗も稀に嘗めさせられるこごもありますがね。ですから、少し省察を怠りますこ、生活はすぐ妥協的になつて、中々ほんものなご出ないのです。

M　勿論、托鉢する人によるここでせうが、托鉢がつまらなく利用されるここもないではないでせう？

K　それは、ありますこも。從順な安人足をやこつた氣で

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

使ふ方もありますし、表面殊勝氣に裝つて托鉢者を呼びながら、實は店の者や女中を酷使する道具につかひ、已は更に下座することを知らないといふやうな商人根性の家もありますし、又、小さい誇りや或種の趣味から托鉢者を招がれたり、徒然を慰める友達扱にする變つた有閑階級の方もあります。

M　なるほど。

K　結緣とか自分の見學修行のためなら、引つぱられるまゝに、どこへ行つても差支ないのでせうが、こんなに行詰つた時代に、さうゆつたりかまへてゐるわけにはいきませんから、いのりのはつきりする方する方へと同人は向きあふやうにしてゐるんです。……婦人の方など、一軒の家にあまり長く勝手働きの托鉢をしてゐますと、中には、へんな下種根性になる方もあるやうでして、ほんとにむづかしいものです。私は、ご相談をかけられますと、事情のゆるす限り、時代苦に直接ひゞくやうな托鉢の筋についてもらふやうにお願ひしてゐます。婦人ならば托兒所などへ、荒行に堪へられさうな靑年の方なら貧民窟か工場へ行つていたゞきます。體の丈夫でない方とか、その他、特別の事情の存しない限り、ありあまる家の女中奉公とか雜役の手傳とかは、微溫的すぎて、靈の生長を阻みさへするやうです。それは、たゞで働いて下座を行ずるといふいき方ですから、普通なら、いたるところ喜ばれる筈ですが、たゞ喜ばれたからというて、それでをさまつてしまつたら、ずゐぶんおめでたい話でせう。ところが、どうも、そのおめでたやになりがちで困ります。それと氣附いてゐながら、さうならずにゐられないのが人間の弱いところなのでせうか？

M　人間つて、考へやうによると、さう具合のいゝもんぢやありませんね。あまり多くを期待すると、だから、幻滅させられるんです。精神運動だけで、社會がどうにかなるやうに考へてゐる人達は『人間』を知らなさ過ぎますよ。社會の動きつてものは、さう單純な聖なる力にばかり依るものではなさゝうです、勿論、僕等かつて、聖なる力の存在そのものを否認しはしませんが。

K　ほんとに、それはそのやうですね。人間最上の安立が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

宗教的生活によつて得られてゐる事實がある以上、聖なるものは、あくまで鑽仰したく思ひますけれど、非常な宗教的天才とか篤信家でないかぎり、聖さに徹し切ることは、事實、出來にくいのですから、人間くさい私共にふさはしい道としては、コーランと共に劍を握るとも必要に應じては許されなければならないと思はれます。

M　精神主義者がそんなふうに目ざめてくれるといゝんだが、彼等の多くは、ドグマに囚はれてゐて、人生や社會をありのまゝに正視しようとしないから困るんです。……インテリゲンチヤなどいふ手合ひも、議論倒れ研究倒れで、あらはれようとしてばかりゐて、實戰には、それは、頼りになりませんよ。

K　さうでしよう。……實行力のないのが一番具合がわるいですね。思想、思想といつて、それに特殊の權威でもあるかのやうに、力みかへつてゐる思想家もあるやうですが、さういふ人達の生活——文化的知的生活がさういふ思想を生むのでせう。知らん間に、人間は、その生活に何もかも彩られてしまふものですから。

M　生活環境から超越するといふことは、選ばれた人にだけ許されてることでせう。資本家に資本家獨特の考へ方があり、勞働者に勞働階級的道德の存在するのは已むを得ますまい。だから、いくら議論を上下しあつたとて、議論ぢや、事はきまりつこはありませんよ。初めから、生活がちがひ觀點がちがつてゐるんですから。結句、どうしても××の問題になつてきますよ。

K　さういふ論理ですね。それで、愈××となると、日本なんかは××的勢力が種々な形をとつて表はれてきませうし、挑はなくつてもすむ筈の犧牲の血もずゐぶん流されることでせう。

M　その點については、僕は、多くの人と觀察を異にしてゐるんです。みんなに樂觀しすぎてるつて非難されますが、僕はさう驚くほどのことはなからうと思ふんです。××の心理は常識の打算を跳躍して動きますもの。

K　さういへばさうかも知れません、これまでの××で成功したものが悉く始めから充分成算があつて行はれたといふのでもないのですから。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

M　×××でも××××××でも又×××にしても、民衆が動くときに、何が出來ませう？戰術のことになれば、その時〳〵で、いろ〳〵になりませうが、××の勢力だつて僕達は無視してかゝつて差支ないと思ひます。

K　なるほど。

M　僕達の仲間といへば仲間ですが、×××一派のものは從來の關係から、あゝした勢力を過重視する傾向があるやうです。あなどることは、勿論、愼まなければならないが、水鳥の羽音に驚いては軍は出來ません。僕にとつては、もう、今の立場が、必至的になつてゐるのですから、のくも引くもならないのです。

K　私も出來るだけのことはさせていたゞきます、一所に起つてくれる友も少しはある筈ですし………………

M　………………あゝ、ずるぶん、しやべりました。もう何時でせう？

K　二時をまはつたやうですね。

M　これは失禮しました、つい長座をしてしまつて。

K　どんでもない。私こそ失禮いたしました。いかゞですか。御差支でなければ、おとまりになつては………………

M　ありがたう。………………つい、一と走りですから、今夜は歸りませう。

K　さうなさいますか？………………何だか雪のやうぢやありませんか？あゝ降つてますよ、どうりで寒すぎると思つた………………やはりお歸りになりますか？こゝは御遠慮は少しもいらないのですが………………

M　えゝ。このまゝ語り明かしても、かまはないのですが明日また仕事がありますから。

K　では、無理にお留め申しません。通りへ出るまで道がまだ堅まつてをりませんから、お氣をつけ下さい。みんな、よく、夜はこけるんです。

M　ありがたう。では、御免………………

K　どうぞお大事に………………

――一二•五•二〇――

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

花壇作り

横山朱鳥

裁縫室の前の
日向のよい所
三坪ほどの花壇をこしらへた
私は學校の小使です。

「小使さん
何を播くの」と
三年生の男の子が
土によごれた私の手先を眺めます。

「コスモスに葉鷄頭………………」
「それから」
「それからね――お光のたね。」

コスモスに葉けいとう
それはわかるが、お光のたねは
子どもにはわからぬらしい。

「あゝそうだ、日まわりだ」
子供はにつこりほゝえみました。
私もだまつてほゝえんだ。

花吹雪

風にひらひら
花吹雪

さくらひらひら
花吹雪

テニスコートにちりかゝる

お光の意味に就てお尋ね申します

池田龍一

天香様

私には『おひかり』こいふもの、意味が未だによく解らないので御座います。それで、御多忙中御迷惑をも省ず、そのことに就てお尋ね申します。あなた様の御揮毫なさつた御書の中に

姿を消せば光が出る
姿を出せば光が消える
ほんこに世の中はむづかしい

こいふ御文字が御座いました。誠に妙なお尋ねで御座いますけれご、お光こは絶對から出るもので御座いますか、それこも認識から出るもので御座いますか。私の申して居ますこの意味を更に詳しく申しますならば

(甲)私の絶對こ申します例は次のやうなもので御座います。

(一)吾々が物に接した場合によくあることで御座います。即ち、視覺に就てこれを例して申しますならば、次のやうなことがよく御座います。

出會ひ頭に、形態の識別も色彩の識別も未だ起らない瞬時——時こしては瞬時でない場合——が御座います斯の如き種類のもの（斯の如き狀態の時、斯の如き雰圍氣）を指してお光こいふので御座いますか。更に具體的に例して申しますならば——吾々が松の木に面した時、これは松こいふ木であるこか、葉は綠こいふ色であるこかいふやうな識別の未だ起らない時が御座います。斯の如き狀態の雰圍氣をお光こいふので御座いますか。即ち、吾々が松の木を眺めて其の松の木に沒入し『吾れ』なる意識を忘れてしまつて居る狀態にまで到る途中（自己意識より自己歿却他入になり切つてしまふまでに到る途中）に於て『吾れ』こいふ意識も

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

なく、又『松の木である』といふ意識も無いやうな時が御座います。斯る時の雰圍氣を指してお光といふので御座いますか。

これを概念的に申しますならば、自己意識より自己歿却他入に到る途中に於て、自他の區別の判然としない時が御座いますが、斯る時の雰圍氣をお光といふので御座いますか。

(二)これは前の例と同じやうなことで只その順序が逆になるだけのことで御座いますが。

吾々が吾れを忘れて物を凝視したり或は凝聽したりして居る場合――自己歿却他入して居る場合――から再び『吾れ』なる意識に歸する途中に於て、明暗の識別も無く或は音響に對する識別もない時が御座います。斯の如き時の雰圍氣を指してお光といふので御座いますか。

(三)吾々がヒヨツト氣づいた時

自分は今一體何をして居たのであらう
自分は今一體何を見て居たのであらう
自分は今一體何を聞いて居たのであらう
自分は今一體何を味つて居たのであらう

と思ふやうなことがよく御座います。斯の如き茫然たる無意識狀態を指してお光といふので御座いますか。

(四)これは私の知らない事柄で御座いますが、

所謂ジヨウ(定)に入つて居る時のやうなものを指してお光といので御座いますか。

(乙)私が認識的のものと申します例は――

吾々がものを凝視したり凝聽したりして『吾れ』なる意識を忘れて、その對象物に、なり切つて居る時が御座います。即ち、自己歿却他入してその『他』から發散して居る雰圍氣に浸つて居る時が御座います。例へば、無心になつて波に見惚れたり、無心になつて鳥の聲に聽き惚れたりして居るやうな時が御座います。斯る時に感じて居る雰圍氣――吾々の五感覺器に觸るゝ時吾々をして歿我たらしむる如き刺戟となる雰圍氣が御座います。この雰圍氣を總稱して私は美と申すので御座います。お光といふものは、私の申す美のやうなもので御座いませうか。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

更に、言葉を換へてお尋ねいたします。『姿を出せば光が消える』といふ意味は、次のやうなことになるので御座いませうか。

(一)前記(甲)に對して申せば

例へば、松の木に面した出會ひ頭の無意識狀態を通過して『あゝ松の木だ』と思つた時の如きを指して『姿を出す』といふので御座いませうか。

又、ジャウ(定)に入つて居るものが再び吾れに歸つた時の如きを指して『姿を出す』といふので御座いませうか。

即ち、自他の區別の無い處から、吾れなる意識に歸つたり或は自己歿却他入したりすることを指して『姿を出す』といふので御座いませうか。

(二)前記(乙)に對して申せば

物を凝視して吾れを忘れ對象物から發散して居る處の輝き(雰圍氣)を見て居る場合――自己歿却他入して居る場合から再び吾れなる意識に歸るやうなことを指して、『姿を出す』といふので御座いますか。即ち私の申す美の破れた時を指して『姿を出す』といふので御座いますか。

私がこのやうなことをお尋ねいたしますのは『自他一體感即ち愛』といふ意味が充分了解出來ないからで御座います。

――自他一體の靈的體驗によれば自他一體感即ち愛なり。

と中桐さんが仰有つて居られます。私には、その自他一體の靈的體驗といふ內容が想像出來ないので御座います。如何なる狀態の時を自他一體といふのであるかよく解らないので御座います。けれども、それは恐らく所謂おひかりのことであらうとは思はれます。處が、そのお光といふものは如何なるものを指していふのであるか、それが又はつきり解らないので御座います。それでこんな手紙を書いてお尋ねして居るので御座います。

若し、自他一體感がお光感のことであつて、そしてお光といふものが(甲)の如き種類のものを指していふのであれば私には自他一體感即愛といふことが解らないので御座います。――自他一體の靈的體驗より吾れに歸り所謂認識の上よりこれを眺むる時、知よりしては自他一體感を覺え、情よりしては快を主としたる情緒情操を覺え、意よりしては自他一體たる事情を具體化せむとする欲求を感ず――といふことが充分得心出來ないので御座います。私は座禪をやつたことも御座いませず、ジャウ(定)とは果して如何なる心境のものを指していふのであるかよく存じませんから、その點に就ては何もいふ資格が御座いません。けれど(甲)の(一)(二)(三)の如き場合をお光とか自他一體とかいふのであれば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

私には、自他一體には何等の快不快の情を伴はないので御座います。再び吾れなる意識に歸り所謂認識の上から眺めます時には、事情によつて或は快なる時もあります、又、不快なる時もあります。快不快共に無い時も御座います。從つて自他一體感即愛とのみは限らないやうに思はれるので御座います。この意味に於て、自他一體からは愛も生じ又憎も生ずるやうに思はれるので御座います。

私は『愛は美を感ずることによつて生ず。美とは、吾々の五感覺器に觸るゝ時吾々をして恍惚（自己歿却他入）たらしむる如き刺戟となる雰圍氣をいふ。陶然花の如きものを以てのみ美といふにあらず、自己沒却他入感總て美感なり、美感を再び得むとする欲求の心即ち愛なり。換言すれば向自己沒却心（向他入心）即愛なり』と思ふので御座います。愛は認識に過ぎないと思ふので御座います。自己沒却他入感なれば必ず一種の快情のみが伴ふと思ふので御座います。そして神經生理上からも說明出來るやうに存じます。

若し、佛が眞如から來たものであるといふやうな意味での愛なれば、自他一體感即ち愛と同時に自他一體感即ち憎もあつてよいやうに思はれるので御座います。所謂佛魔は一體のやうに思ふので御座います。次の如く考へます時に私の頭には入り易いので御座います。

極樂	美	佛	愛	認識
地獄	醜	魔	憎	認識

絶對
眞如

大乘では所謂佛は認識のやうに私には思はれるので御座います。私は、色即是空の色は物質のことで色彩や形態等總て認識を指してあるやうに思ふて居るので御座います。空は零を意味するに非ずして不定——非絶對——といふ意味であらうと解して居るので御座います。

お光を絶對のものとしても、又、私の解する佛の光の如き認識的のものとしても、何れにしても、懺悔奉仕の生活といふものは方便としか私には思はれないので御座います絶對的のものとは思はれないので御座います。半面の眞理しか無いと思はれるので御座います。當爲の生活と思ふことが出來ないので御座います。吾々の心には常に神性と魔性の二物があると思はれます。即ち、愛憎の二つが常にあると私には思はれます。一方が本來で無いとは思はれないので御座います。兩方を否定するか、兩方を認めるのでなければ私には得心出來ないので御座います。どうぞ御敎示下さいませんでせうか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

池田龍一様へ

西田天香

この頃の私の怠慢をこらへて下さい、全く粗末には思ふてはゐませぬが、行届かないのです。場面が廣くなつたのと、ことが段々複雜になるのとでゞす。總じては私の力と德の足らぬことで、又見よふによつては是丈此生活が種々の方面に觸れ甲斐のあることを證明してゐます。何にも役にたつおひかりといふてもよい。又隨つて何にも此おひかりだけがきえてあつたこともいへるとおもひます。

先達來の中桐さんへの大切な御質問のうち、私と二人宛の分、一度一寸眺めまして、是はゆつくりと別の引出しにいれたのがこの後れとなりました。全く一寸は答へにくいことです、それは私のあたまには何となく「ハツキリ」したものがありますけれども、それをそのまゝ書きあらわしかねるに困るのです。

此文も大方あなたを滿足させまいと心配します、けれどもよんで見て下さい。

一番初めの『光とは絶對（自他一體）から出るもので御座いますかそれとも認識から出るもので御座いますか』とあるにまづ光といふものについての扱ひかたに一寸のちがひしかも是が大變な距離であることに氣付かされます。

併し是には先きに斷らねばならぬ事があります。それは私が從來光といふ事を度々筆にし言葉にしまた思想に下して、そも／＼あなたに「光とは何ぞや」といふ樣な事を思はしめるやうにしました私の態度を『あれは人の叩くために鳴つたので天香自身が話したのではないのである』として許してもらひたい事であります。と申すのは光とは光とは何ぞやといふことすら思はない時に、何處から出るとかは入るとかいふことでもなく、過去も現在も一瞬間も永遠もなく、心でもなく物でもなく、また同時にその全體である『ありのまゝ』であつて『光とは何ぞや』といふその疑問するそれ自身すらも見やうによつては客觀的に取入れても差支へないそれなのでありますもの。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

是は少し詭辯のやうでありますが『光とは何ぞや』といふそれ自身も光であるとするとどうなりますか。『大我とは何ぞや』といふそれ自身が大我のうちのそれであつたならどうなりますか。

　疑ふそれ自身には迷ひであつて落付かいでも、それがそのまゝ客觀的には「ありのまゝ」で光ともいへるともおもひます、ぢやといふてその疑ふ自身迷ふそれは光ではないやうです、それはもだへの一つですから。もだへとはもだへで自性のないものゝやうです。ないはづのものが忽然としてわきます、わいても自性のないものです。とりとめなく勝手にもだへるのです、そうしてそれが心にも身にも生活にもくい入ります、どれだけくい入つてゐてもその物は「ありのまゝ」です、けれどももだへ自身には中々の苦痛になつてゐます。たとへば大阪の何某の大破產事件としましても、之れが爲めに非常な澤山な人のもだへにはなつてゐます、けれどもその事はたゞ銀行や商人の間に帳簿の上に數字が左に多かつたり右に少かつたりする丈です或る大きな家にゐた人が他の小さな家に移つたり、ヒヨツトすると二三の人が闇い板間に數ヶ月坐る位の事です。實相はいつも不壞であつてもだへのみもだへるのです。

光といふものはこうしたもの、表徴であつて、絕體（自他一體）から出るものでもなくまた認識から出るものでもないともいひたいのです『から出る』といふにはふさわしくない『である』のほうがまだ落付く。そうして光は「ありのまゝ」であるといひたいのですわたしのかいたといふ『姿を出せば光が消える、姿を消せば光が出る』はいひまわしかたに不注意があります、いかなる言葉にも半分の足らなさがあるとして理解してよめばこれでも許されもしましようが、前述の言葉になほせば

『もだへが出ると光を去る、もだへが消ゆれば光に歸る』ともいふべきでしよう。

かくいわしてもらうて次ぎに

絕對と申します例(甲)のうちの「一」出會がしらに何の形も色も識別しない一瞬時を光といふのですか、この御尋ねも、「二」の物や音を凝視凝聽して我を忘れて居る場合より、再たび吾れに歸る途中まだ明暗の識別もない、また音響の感覺もない或る一瞬時を光といふのですか、このお尋ねも、『三』のヒヨツト氣がついた時でまだ無意識狀態であつた時のやうな云々の此三通りのそれは

光は常住不變であるとすれば、己れの心（身及生活は別

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

こしてこりあへず心だけ）の光化する時の狀態についての問題こなります、するこ先きの言葉を引いてくるこもだへのないこき、つまり迷はざるこき、一番こゝのふた清淨な心のこきが光化してゐるこいふここになります。一番整ふた清淨なこ申してもそれ〲自分勝手な考へも出ましよふがそれは進境のあるにつれて前の清淨こおもふたのがまだ足らなかつたり、前の整ふてあるこしたのがまだ整ふてゐなかつたりする事を發見するここがあるでしよふ、かゝるこきは一番究極のそれは心のなくなつたそれかも知れませぬ。また此なくなるこいふ事は所謂無いでもないはつきり心が働きながらそれが無心の狀態であるこもいへぬここはない。「一」がそれやら「二」がそれやら「三」がそれやらはあの御說明の文字だけでは一寸他からはこれだこか否こかは申し兼ねます。我を忘れこいふても忘れかたによつてはよろしくない、また我に歸つてこあれごも歸りかたによつては差支もない。鏡面に物の影するやうに影じても汚染がないならばそのまゝさわりがない、我に歸つても歸りかたである、一度光に歸りまたうつされて鏡にうつゝたこて無自性無汚染なれば差支はない。「四」の「ジャウ」即禪定。のそれは抽象的でありますが「ハッキリ」した光心で是は同時に光身光生活を兼ねたものであらねばならないのであります（所謂一時の興味でやる坐禪が野狐に落ちるのは光身光生活を度外して只一時の恍惚境を許すこごがあります是は問題外です）之れは正直な謙遜なあなたの御言葉で經驗がないごありますが、之れを經驗したこきには私の足らぬなりにも申します光こいふこごはハッキリするこおもひます。

乙の場合の物こ音こを聽きまた見されてゐる時のここも前段の說明のうちに入るこおもひます。忘我こか認識こかの區別しかたでなふて、忘我の內容認識の內容こいふここに區別がつきます。不汚染のそれ等こ汚染のそれ等この區別こなります。

一度執着を脫して（もだへをすてゝ）光に往きます。之れを往相こも申ますこ、それから執着相に呼ばれて還ります之れを還相こも申ます、よばれてきたのは已れの執着ではありませぬ、認識も還相であるこきに所謂認識ではない水に寫つた月こもたこへます、水の底に圓形がこべりついては困りましよふが寫る月なら無自性です。認識が我見こなり執着こなりして人こ世のもだへになるのは困りますが人こ世のもだへに呼ばれそれを除く爲めにあらはれるのは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

矢張光の自在性であつて決して爲めにする方便でもありませぬ、無縁無自性が慈悲とあらはれるのであります、執着の人の眼にこそ慈悲とか方便とか見へても、それ自身は無自性無汚染の絶對なのであります。懺悔奉仕と申しますのも人の世の言葉にかくいひまた囚はれて相を見せますが、本來は絶對が他の執着に縁起されてあらはれる狀態で水ありて月をうつすと同じことであるのです。

先きの「ジャウ」禪定の事を申した序に御尋ねの『姿を出す』といふのはジャウに入つて居たのが再び我に歸つたときを指すのですか』とあるに對しては、禪定(ジャウ)からもとの執着相にかへれば姿を出したことにあたりますが、還相で還つたのならそのまゝ禪定(ジャウ)に居るといふことになるのです『あゝ松の木だ』は禪定中にもあることで所謂柳は綠花は紅で、それが見られなければほんとの定でありますまい隨つて『あゝ松の木』だは「姿を出す」それには當りませぬ、絶對が破れたのではありませぬ。

又『物を凝視して、吾を忘れて對象物から發散して居る輝を見て居る場合より再び我に歸るやうな事を指して「姿を出す」云々』とありますが、先きの「あゝ松の木だ」とあるのとのちがひは、絶對から歸るのと認識から歸るのとのちがひを指されたものかと見へますが私の前の説明よりすると、その認識が還相の認識であるときに絶對の不汚染的なものである故にその區別がつかなくなります。隨て又快情があつても不汚染であるときにさわりがありませぬ矢張光のそれとも扱へます。之れが神經生理上からも證明出來るやうに存じますとあるは、あなたの專門の事で私はわかりませぬが、證明出來そうな事のやうにおもはれておもしろいのです、それは物質と精神とは不可分であります。

又私の前述の説明のしかたによりますと、慈悲絶對の不汚染的なはたらきであることによつて愛といふものが自他一體(やゝこしいから自他一體は絶對をいふたものとして)產れることなるのです。

又佛が「眞如」から來たものとしてとある段の佛は「はたらき」のきもちの加はつたやうに見へる慈悲をさすのですか。佛と眞如とは一つに扱つてもよいともおもひまた、慈悲といふことなら「から來た」といふても差支はないとおもひますが、兎に角自他一體から愛が出るといふても自他一體即愛といふてもかまわない道理は前の通りであるとしまして扨問題の憎が出て來る可能性があるかといふとは私の説明のしかたよりすると出て來ない事になるのです。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

それは此愛の字義は普通の愛憎の愛とは違ふ樣です。愛は憎とすぐ連想されますが、慈悲となると何があてはまりますか無慈悲でしよふが、もし無慈悲も出て來る可能性ありとすればそれは魔性から出るもので、魔性は無明で無明は忽然として出はするが、前にも申した通り「あるべきでないもの勝手に造つてなやんでゐるもの」といふ事になるのですから、憎も無慈悲も眞如や絕對からは出てこないものとなつて、本來にはあるべきでないものに當るのであります。けれども實在にあるでないかと問はれますなら、もだへの世界無明の世界には勝手にあるとしてゐるのだと答へたいのです。こうなると絕對とか眞如とかの定義が問題になりますが光よりする見方として許して下さい、認識(不汚染底でない)で議論となれば中々容易でありませぬから。そこで憎や無慈悲は別の世界魔の世界から勝手に造り出すとはいへても自他一體や眞如やからは出るはづがない。もだへはそれ自身が本來に覺めたい爲めの姿である本來ならばもだへはない。本來に歸り覺めたいときに本來のそれ自身はもだへない不壞の金剛體から自在にいろ〳〵の姿になつてあらわれる是が慈悲の愛である。からして憎と無慈悲は出やうが出ない。

是は私の專門でないのですが、快情が神經生理學上からも證明出來ると同時に不快情も又出來るとおもひますが、私は快情は身體の本來自然に歸るときの一つのあらわれで不快情は本來自然から遠ざかる時の一つの現はれであるとおもはれ隨つて現實では機質的に同じくあらはれましてもそのよつて來ます本源が違ふとおもわれます、身體が自然にかなふときと魔性に冒されてゐるときとの違ひすで。昔から病魔と申ますのもおもしろいとおもひます。是はあなたに伺ひたいのです。

次に『大乘では所謂佛は認識のやうに思ひます』とのあなたの御言葉ですが、私は正式に何も讀んでゐませぬからはつきり答へられませぬ、けれども不汚染の認識は佛と別の物でないとは右の私の說明でも申されます。眞如と絕對も御文の通りで差支ないやうです。理と法とも不二であり又不可分でもありましよふ。色即是空は無論の事であります。けれども『色は色彩や形態等總て認識であるやうに拜見して居ます』に至ては私はサツパリ解りませぬ、色彩も形態も認識の部類に入りますのなら、無學な私は認識といふ事の定義を知らぬものとなります。あなたが空は零にあらずして「不定」といふ意味に解釋してゐなさる事は一寸

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

了解しかねます。

最後に『光を絶對のものとしても又私の解する佛の光の如き認識的のものとしても、何れにしても懺悔奉仕といふものは方便としか思はれない』とありますのは、光といふもの、解釋が根底に於て違ひますので、こうした疑問になるのかとおもひます。

前段に縷々述べました事によつて、若し光が別の意味となつてきましたら、大方種々の疑問のふし〴〵が樣子がかわつてくるとおもひます。

美と愛とに對する本質論は貴重な研究とおもひますがこの私の勝手な述べかたが參考にでもなつたら難有いことであります、更らに行屆かない處は指摘して下さいませ。

よみ返しもせぬのです。これ丈書かせてもらふ事は近頃にない事なのです。おかげで少しく心を落付けさせてもらひました。もはやすぐ雜多な用事にせめかけられてゐます、不汚染の還相でなければならぬのが、中々にそふはまゐりませぬ脱線しがちです。御祈添下さい。皆樣お丈夫ですか。御大切に、さよなら。

感懷

杉山扇溪

求道廿餘年　多岐望洋失　偶識天香師
讀懺悔生活　單身走京師　忽投鹿谷窟
數日從托鉢　認微光喜悦　不眠且過勞
深陷暗黑穴　初赴大雲院　墓碑連數列
多年曝風雨　或有欲不立　長短又大小
如見生前日　發祥河道屋　師跡思慕切
唯恨有饂飩　無踏饂飩室　鞍馬口食堂
學生談風發　默々思往事　足蘇青春血
家爺淫集積　貯財數千鎰　富者入天國
難基督戒曰　恰如乘駱駝　通過於針穴
師來循々乎　垂教乞子詰　日睹聖者姿
心眼未透徹　文珠訪方丈　獅吼維摩詰
耳聾不能聞　罪障不能滅　室町修行中
飛電報父疾　急遽收行李　愴惶京都發
歸家力看護　眼窠落骨立　咯痰塞咽吭
呼吸時欲絶　苦悶三晝夜　生涯告斷末
無常太迅速　出離志痛切　再上求道途
老大意氣拙　夜靜發深省　念念思解脱

エドワード・ボックとエドワード・ダブルュー・ボック

野原耕二 譯

左の一篇は、米國エール大學教授朝川貫一さんから、天香さん宛に、態々御送附に成られた紐育タイムス・マガジンの一節を飜譯したものであります。匆忽の際とて多少の誤譯は御許を御願ひ致します。

エドワード・ボック氏が自ら進で『婦人家庭雜誌』の主筆の椅子を辭したのは、三年少し以前の事であります。氏は主筆として、前例なき年俸十萬弗を享けて居ました。當時氏の經營せる雜誌は、成功の眞の絕頂にありました。明かに月二百萬部の賣行高を示しました。其主筆たりし最後の月の如き、廣告代にても純粹に百萬弗を收め、未曾有の記錄を作りました。氏の健康狀態は、有り餘る心意の活潑からして申分なく、謂はゞ、萬事其掌中に在る慨がありました。カーチス出版會社の理事局は、氏の辭職を由々しき大事として許さず、一年の間、辭表は机上に轉がつて居ました。併しボック氏は言ひ張り、而して樂しかつた樣々な事共を放擲し、易々と待ち受けました。何の爲に、『遊戲』の爲に、と氏は斯う呼んで居ました。

爾來氏は、其主筆時代の俸給よりも巨額の給料を以て、追ひかけ〱二回も迎へられましたが拒絕しました。『何故ならば』氏は答へました。『私は最早給料階級は卒業したからであります』尙言葉を次ぎました。『私が只今爲さうとする事は給料無しに働くと言ふ事であります』

然れども一般には、未だ其眼を絕へず偶發事件に注ぎ、有ゆる機會を金貨に轉換する人が居るのであると信ぜられ且其風評も行はれました。其人は生れ乍らの金儲家である唯金錢を愛した、而して其以外には極く僅少の事しか知らぬと思はれました。然るに氏は啻に年俸と言ふ財產を位地諸共に放げ出したのみならず、亦其以上の巨額の給料さへも同樣に度外視しました。

エドワード・ボック氏の如く出版業に於て、際立つた材幹を有する人は極めて稀でありました。氏は今日迄出版業に從事し、常に操觚業に終始しました。多年氏は北米合衆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

國に於て、最も廣く觸目せられて來ました。新聞記者の筆先は何時も氏に向て峻烈であり、而して過分に譽められたり無下に貶されて居ました。信服されたり諷刺されたり氏は舞臺上の喜劇役者の笑的でありました。氏は明白に其を好みました、けれども決して感情の一微動だに拂はなかつたのは眞實であります。

然るに今は如何でせう。諸新聞の訪問記者は此同一の人から面會禁止を受けて居ます。事實有ゆる特派記者は氏に面接せんと試みて居ます。氏は紐育の一新聞社から一文千弗を提供されて居ます。ボック氏の同族中に一新聞社があります。其は氏の養父に依て經營せらるゝもので、此近親關係も他の新聞社の如く不成功であります。『誠に有難う』氏は言ひます『私にとつては安靜なる生活其のみであります』、而して氏はフロリダの家庭に趨り、通信者や記者から遙に遠ざかつて全冬を過します。フロリダ公園の氏の麗しき新邸宅すらも公開されないに相違ありません。

氏の著作は從來、巧者な併し何等顯著なもの、無い、新聞雜誌階級のものとして容れられて居ました。突然、二年前氏は『エドワード・ボックの米化運動』と題する一書を出版しました。其は氏の自叙傳で、眼立つ點は叙法が第一人稱でなく第三人稱を用ひて有る事であります。『此人に就て、より善い配景法を得る爲であります』と著者は言て居ます。此書籍を續出するやうにとの凡の申込は斥けられ、而して靜かに一版又一版と筆者の印刷物は現はれます。其爲に同時に二箇の印刷場が、時々世上の需要を滿さんと別個に發行物を印刷して居ます。エールのウィリアム・リォン・フェルプスは即刻此書をフランクリンの自叙傳に比し、コロンビア大學は其年に於ける最上の自叙傳と爲し酬ゆるにプリッチァ賞を以てし、最新大英百科全書は『世紀的自叙傳』と宣言しました。過去二十有七箇月間相次ぎて、全州を通じ事實最上の賣行書籍であり、二十二版が愉快に印刷所から送り出されました。而して殆ど三年近く今日も尙初版當時と異ならぬ迅速さで賣捌かれて居ます。一版五千册は毎三週間の物語であります。

此收獲を完成したのは、確かに氏の筆に成れる小著述『二人の人物』から生れ來て居ます。其書籍は二十五頁ものにて、或批評家の言ふ如く、『人類の理想と人類の功業との何百頁かを壓搾した一の驚く可き勞作』を氏は此書に依り成就し、又他の批評家の言を徵せば『純文藝の文體と華麗なる語法よりして米國文學界に於ける二三の大家に此思ひか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

けざる人を列べるものである』と稱せられました。

氏は嘗て自己の雜誌以外には執筆せず、一般には家庭雜誌向の記者として認められて居ました。不意に氏は月刊雜誌アトランチックの寄稿家として現れ、此誌の編輯長の言に依れば、出來得る限り其頁數を持續するやうに成りました。氏は現在の發行物に對し亦來るべき二三のものに向ても其方針で居ます。

主筆時代には、氏が公衆に講演する等とは決して識られて居ませんでした。氏はフヒラデルフヒア管絃樂の爲に、百萬弗の輸贏場に跳び込んだ其前二日以上に亘り、自己の位地を退かず、嘗て觀なかつた程の最も愉快な而して不思議な成功を齎らした公開午餐會として、今日も尚フヒラデルフヒアに於て語草にせらるゝ二十有餘回の午餐會の司會を爲しました。今日に在りても何人も、一般集會或は饗應の司會に其以上の成功は得られません。氏は公開を嫌厭するが故に稀にしか爲しませんでしたが、何時も非常な成功を仕遂げました。

公開講演家として何人も現在州中有ゆる階級に、より以上の要求は有りません。昨年氏は、各大學各專門學校各種學校商業會議所商務局其他團體から四百の招待を享けました。シカゴ市は公に市客たらん事を申込みました。エール、ハァバート、プリンストン、ダートマゥス各大學も依賴しましたが皆目的を獲られませんでした。最近では五十の申込中一の申込は五萬弗を提供するに至りました。

此驚くべき異常事の秘鍵は抑も何であるか。奇妙な事には氏自身が説明して居ます。『エドワード・ボックの米化運動』中に何故氏が自叙傳を叙するに第三人稱を用ひたかを説明して居ます。『此方法は私が此書籍に描かんとした主筆であり出版業者であるエドワード・ボックを取扱ふて居る中に、極めて自然的に生まれました。何故ならば多くの觀察點より、私と距け離れて居つた又距け離れて居る一人格者と成つたからであります。私は執筆に際し此書籍のエドワード・ボックに深い興味と怡悦を以て私が見詰めて居るのに度々氣が附きました。私は此書籍にある通り、交々喝采したり酷評しました。私が此エドワード・ボックより更に偉大であるとか宏量であるとか考へたのでなく、單に私と相違した人として扱つたのみであります。其人の趣味も外見も事物の觀察法も全然私と不同だつたのであります』。

『私の生涯に、私が主筆の職から退く決心を爲した程、私にとつて慰藉を與へた事は無いのです。私の家族も朋友

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

も亦驚きました。而して私の熱烈な不思議な慰藉に與がりました。此際唯私に最も密接な相應しい事共は、絶對自由の意識に對する理由を説明し得た事であります。私は其に觸れて悦びました。

爾後、私の感情は私には興味ある研究物と成りました。最早二箇の人格は存在せず、私の書いて居たエドワード・ボックは完全に姿を消した如に私から拔出しました。唯私の書齋の架上に其人の記錄類や綴込が殘て居る計りであります』。

ボック氏が最初の一文をアトランチック誌に送附した時エドワード・ダブルュー・ボックと署名しました。該誌の主筆がダブルューは誤謬で無いかと照會しました。『否え、少しも』氏は折返しました。『エドワード・ボックは婦人家庭雜誌を編輯した奴です。エドワード・ダブルュー・ボックは現に書きつゝある私であります。さよなら』。

恐らく多數の人は斯樣に尋ねませう。『二箇の斯かる人格が同一の人に存在する事は可能であらうか』。『何故不可能ですか』二重人格の生態研究者であるボストンのモァトン・プリンス博士は答へました。同博士は單に同一人中に二箇の明瞭なる人格が存在し得るのみならず、又有名なる患者ビュチャンプ孃の例の如き、四箇のしかも其各自が截然と區別されたる人格が存在し、屢々其等の場合に遭遇した旨を語りました。プリンス博士の想像現象の説明に依れば、其は腦細胞の或組が活動的と成つた時、他の組の細胞と獨立的に行動し、明かに別箇の人格を構成するのであり、又同博士は此等の細胞が二十年間若しくは其以上活動し、他の細胞を支配した事例を識つて居ました。ボック氏の分離人格は三十年間活動を持續しました。

ボック氏の意味深い返答が、氏の二重人格を論及し乍ら若し氏が感じたならば、今日婦人家庭雜誌の主筆に戻り其時代の全盛を取返し得るかと友人に尋ねられた際與へられました。

『駄目』速かな答でありました。『其當時の人格が再び支配しなければ私には不可能であります』

『貴方は其を呼返し得ると信じますか』友人は問ひました

『否え、私は出來ません。私は二重人格が其樣な仕方で働くとは考へません』氏は答へました。

『貴方が再度主筆であつたエドワード・ボックに成らうと欲しないのです、左うでせう』重ねて問ひました。

『決して左うではありません』と答へられました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『何故、左うでないのです』友人は固執しました。

『何故なら、彼は私では無かつたのです』ボック氏は答へました。『私が今表現して居るのが眞の私であります。如何して私が再度自分でも無い他人に成らうと欲しませう。私は唯々、私が其様なものから自由に成つたのが、本當に嬉しくてならないのです。』

ボック氏が他人扱への自身から自由に成つた以來、頻に關說する眞の自身とは何でありますか。其は絕對的に過去のものと反對のものであります。

ボック氏は氏の年齡を正確に兩斷しました。氏の時間の過半は公共奉仕に集中する爲に、フヒラデルフヒアに過されます。夏はメーンで消されます。メーンのペノブスコット灣に臨んで、氏は一莊を有し亦假舍も有して居ます。

冬の三ケ月はフロリダの、此頃建築した新邸宅に於て送られます。フロリダの此新邸宅に氏は今滯在します。而して新著述に從事して居ます。氏の第二次の著作『メーンの人』は昨年の夏既に完成し、此四月には出版されます。此書籍の試みは、實業が無味乾燥のもので無く、身震ひする程の感動的冒險で滿された、ロマンスなるを示すらしくあります。其は眞に青年には神來的書籍であり、熱り切つた實業家には『メーンの人』に描かる、著者なる、而して此書籍に現はるゝ主人公なる、サイラス・エッチ・ケイ・カーチスの生涯を辿る興味をそゝられると思はれます。

フロリダに留まるボック氏の日每の悅びは、小鳥や人類に對する天然の聖殿の發展を見張る事であります。其はフレデリック・ロウ・オルムステッド氏が、フロリダ唯一の山の頂に工夫したるものにて、ボック氏が購つたのであります。『正しく麗しき地よ』ボック氏は說いて居ます。『漂泊の小鳥は憩ひ、人々は安きと休みとを觀出さん。其は共に求めらるべきものなり』。此聖殿の設備を果すには少くも五年の歲月を要します。オルムステッド氏は、ボック氏に委せられ此地を、『亞米利加自然界に於ける最も美しき場所』と爲さんと企てゝ居ます。此山の面積は十四エーカー餘であります。

フヒラデルフヒアに於けるボック氏の活動は、夥しくも眼覺しいものであります。昨年氏は『フヒラデルフヒア審判（アワード）』を創設しました。其は其年を通じてフヒラデルフヒアの最上利益を增進する爲に、最も善く計劃せられたる奉仕の、唯一の行爲を仕遂げた男女に、每年一萬弗の審判賞を贈與するものにて、其贈與を保證し二十萬弗の基金を寄托せし設

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

備であります。最も印象的の奉仕の數々が此審判賞の贈與に依て爲されます。昨年の此審判集會は多年フィラデルフィアに催されたものの中の、顯著な會合でありました。其集會にて、レオポルト・ストコウスキが賞を享けました。今年の第二回の審判は三月七日に開かれ、上院議員ヂョウジ・ホァトン・ペパア氏が賞金を授與し、演説し、而して州知事ピンコット氏が司會を爲す筈であります。

ボック氏の他の審判は『市民審判（シチズンアワード）』であります。其は其年に於ける最も忠實なる行爲を演じたる、三人の巡査と三人の消防夫と三人の公園看守人に贈與せらるゝものであります。毎額千弗であります。

又昨年ボック氏は『フィラデルフィア裁判會（フォラム）』を創案しました。其は嘗てフィラデルフィアに起つた、驚く可き成功の設備の一であります。各大學の限定收入の教授、小收入の各種教師及下級公吏員に對するものであります。七十五の各種事件が十五弗宛贈與されました。昨年は裁判會の第一年でありましたが、四千五百人の會員が三週間内に署名せられ、而して名簿は閉されました。本年は其以上に上りました。裁判會（フォラム）は其内部に於て世にも無比なるものであります。其活動は樣々な人々に依て爲されます。先づ裁判會の保護の下に現はれしクレメンシューの挨拶に依て整列し、音樂學院の廣大なる集會場の六箇の無踏場には、共に二箇の管絃樂が備へられ、凡は慈善院の匂に溢れ、而して元氣回復が無償にて與へられます。ヂョセフ・ホフマンとオルガ・サマロフが獨奏を爲し、バク唱歌隊はベッレヘムから呼び下され、フィラデルフィア絃管樂は特殊の奏樂を爲します。又上院議員ペパァ氏は副會長クゥリィヂ氏と共に、月一回時事問題を説明し、ウイリアム・リアン・フエルプス氏は繙讀すべき書目を解説します。歌劇は裁判會の指導の下に、眩惑と怡樂に富める魅力ある一目錄を演じます。

三年前、フィラデルフィアの富豪三十人が、歴史的由緒ある音樂學院の活動寫眞館に轉ぜんとするのを救濟しましたボック氏が其主腦でありました。氏は直に其建物内に一の新廣間を作り、五百五十人の座席を有する、優美なる透明室に變じました。凡ゆる獨有社會の出來事や舞踏が、此處に催され而して今や學院の二箇の集會場に、日々四乃至六箇の會合が開かるゝは普通であります。『ボック氏が建物に魂を吹き込んだのである』有名な或フィラデルフィア人が言ひました。『何人でも如何する事も協は無かつた此舊い建物をフィラデルフィア市民の中心地に爲て仕舞つた。經濟的に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

も自營出來るやうにした。氏でなくて誰が出來やう。』

ボック氏は五年來、フヒラデルフヒア管絃樂の年々の收入缺減を補塡した匿名の寄贈者でありました。斯くて其時代の終には、補助基金は二百萬弗に達したでせう。病時氏は寄附基金の爲に野戰を開始し、所要の金額を得ました。

『貴方はフヒラデルフヒア管絃樂を、亞米利加に於ける最も大なる管絃樂と爲し得ます』氏はレオポルド・ストコウスキに言ひました。『私は其小切手を切ります』ストコウスキは爲しました。ボックも爲しました。今やフヒラデルフヒア管絃樂は、管絃樂協會中の破竹の勢を有するものと成りました。噂に依ればボック氏は近時該管絃樂を國家的管絃樂と爲し、更に國際的名聲をも趨せしめんとする壯圖に從事して居るとの事であります。

人々は續き走り得るでせう。而して『實務から退いた此人』が遊戲する所の半、若しくは其以上の業蹟を算へ立ては得るでせう。氏はメリオン市民協會の會長であります。メリオンは氏が居住するフヒラデルフヒア周圍の郊外であります。氏はセスキ百年祭協會の副會長であります。又紐育市に於ける米蘭協會の會頭であります。氏は尙カーチス出版會社の理事にて、凡ての集會に出席します。他の數局の理事をも兼ねて居ます。

『而して貴方は凡て之等を遊戲と御呼びですか』友人の一人がボック氏に尋ねました。

『確かに』莞爾として答へました。『遊戲の最上の種類であります。私は今驚嘆すべき時を有して居るのであります』

『貴方が遊戲と御呼びの此種類の仕事と、貴方が以前爲さいました仕事との差違は何でありますか』ボック氏は言ひ掛けられました。

『仕事』答は靜かでありました。

『貴方が御自身の爲に御働きになるのが仕事であります。貴方が他人の爲に御働きになるのが遊戲であります。其差違は人々の感情内に於て恐ろしいものであります。若し人々が其感情の、眞に如何やうなものであるかを識つたならば、職業が奉仕に完全に變ります。其は人々を再び若返らしめます』

而してボック氏は自身の體軀を眺めました。氏は明年六十歲に成ります。併し十歲位若く觀えます。

『斯樣な事は有りません』微笑しながら氏は斷言しました明かに有りません。其は宛然二個の人が生けるやうであります。何故ならば、確かに、エドワード・ボック氏が一人、而して今や他に、エドワード・ダブルュー・ボックが一人生存して居るからであります。

『丁度、始まりであります』氏は斯う言つて、其唇を閉ざしました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

古都の春

すゞき五ろう

一年前の
春三月

奈良は
大佛殿のほとり
水門町のAさんへ
足を病んだ　あげくの
私は　寄せて頂いてた

崩れた築地に
まつわつた蔦の芽が
つゝましやかに微笑み出して
折り／＼響く　大佛の鐘の音も
何處やらに　潤ひを含んで
人の心に　泌み込む
頃だつた

先生が　女學校へ
行かれた　御留守は、
七十五になる
それは　それは　やさしい
御姥樣と二人、
古びた　閑靜な
香のかをりの泌みた
御家に　寂しく暮した

朝の御掃除が　濟むと
私は些やかな佛壇の前で
觀音經や　山上の垂訓を
讀ませて頂いた、
讀經の後の靜けさ
何處やらで　しきりに鶯が
鳴いて居る　こともあつた

少し南に寄つた　椽に
日が　當つて來ると
御姥樣は　日向ぼつこを　なさる
時折りは　ほどき物などを　持つて、
私は　そのおそばで
本を讀ませて頂く
大抵は　御姥樣の爲に
御好きな新小說

古い都の
片ほとりで
七十五の御姥樣と
黑い布子の托鉢者とが
お宮と　貫一との
悲しい戀のもつれに
紅涙を　しぼつた　こともあつた、
それも　春であつた

しかし　或る時は、
突然と　寒い風が
訪れた
　阿彌陀佛
　御名を稱へつ
釜の底
洗へる　肩に
粉雪の降る
こんなに歌つた
こともあつた

或る時は
まだ　うら若い　巡禮が
淺黃の甲掛けも　寂しく
門に立つ　こともあつた
　山路越へ
　野越へ　行かなと

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

巡禮歌
聞けば　淚の
せちに流るゝ
あゝ、私も同じ　札所定めぬ
遍路の身で　あつた

夕方、先生の御歸り近くなると
私は　御姥樣に　御相談して
笊や　お鍋を　持つて
八百屋や　お豆腐屋へ
夕餉のお菜を　買ひ出しに　行く

おゝ、そうそう
雲井坂の　下のあたりに
「天は　決して
自ら勞働せざる者を
助けず　ソフオクル」
と、仁丹の廣告に
格言を書いた　電柱があつた、
私は何度　夕陽に輝く
この柱を　仰いでは
獨りほゝ笑んだ　ことだろう
靜な先生と
やさしい御姥樣と
黑い筒袖の私と
三人一つ卓を　圍んで
寂しい　つゝましやかな
食事が終ると、
先生は　すぐに　御勉强に、
御姥樣は　御佛前で　般若心經を
三遍お上げになつて
宵闇が　ようやく軒先へ
忍びこんだ頃には
もうお休みになる、
私も　先生の書棚から
お借りした　御本を　讀ませて頂いて
疲れゝば　夜も更けぬ　うちに
休ませて頂く、
おゝ、何と云ふ　惠まれた
安らかな日だつたろう

その間にも
先生の敎へ子の
Fさんの處へ　托鉢して、
物置に　莚を敷いて
澤山の行火の　張り替へをしたり、
御店の遊女さん方と
一緒に　お風呂へ入つて
肩を流させて頂いたような
こともあつた
ある時は
お寺の　草引きに　行つて
春の日を一日　墓場の中で
土と物語つて來た
こともあつた

また　ある時は
先生の御勸めで
古の大極殿の跡を　さむらひ
今は　礎の跡だけ　僅に小高くなつて居る
草原に　腰を下して、
遙にかすむ　金剛、葛城の
山々を　眺めながら
長閑な雲雀の聲に　聞きほれたり、
佐保川の堤に　嫁菜つむ
里の乙女を見ては
はるか東の空に　寂しく暮らす
母上や　妹たちの　ことを想ふて
心をかすめる　淡い悲みに
獨り淚した　こともあつた

しかし
その穩な日も
永くは續かなかつた、
西國に住まはれる
先生のお友達の奥さんが
病の爲に　大變困つて　居られると云ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

報知が來たので　私は　その方へ
急に行くことになつた

夢のように旅へ出た　私が
桃の花盛りの　瀬戸内海の島々の
間を通つて　四國へ渡つて居る間に
御姥様は　かりそめの風邪を引かれた、
風邪が　肺を冒した
園からは　Kさんと　E子さんとが
看護に　行つて下さつた
殆ど我を忘れた先生の　手厚いみとりも
老衰しきつた御姥様を
恢復をさせ申すことは　出來なかつた、
お床に就いてからは
口にお念佛を絶たなかつた　御姥様は
その夏の初に　とうとう燭の消へるかのよ
うに聖い往生をなされた

その頃　四國から京都へ　歸つて居た　私は
御危篤との　御知らせに
飛んで御見舞した時には
まだ　はつきりと　見分けて下さつた、
氷の絶食と暑さとに
げつそりと　御やつれの　御姿を見て
私は　なんにも云ふことが　出來なかつた
私は　唯々、御姥様を　御心安く
往生させ給へと　觀音様を念ずるより
ほかに途を知らなかつた

御姥様は　逝かれた、
寂しい　しかし　心からの
野邊の送りも　濟んだ、
先生は　その御骨を　抱いて
夏休みを早々　高野山へ登られた
母を失ふた子の寂しさ
それが　看病にやつれた先生の
後姿にも　にじみ出して居た

地球は
母を失ふた子
妻に先だたれた夫
そのほか　夫々の業を　抱きながら
三界を流轉する　萬象を載せて
萬物を育て　萬物を焼き盡さねばやまぬ
太陽の周圍を　一廻轉した

そして　月日は又
去年初て　御姥様に
御會ひした頃になつた、
花祭りの薬師寺に
莊嚴端麗な　如來様を拜むだ後で
御姥様と御一緒に
暖い日を浴びながら　お握りを頂いた
あの閑寂な唐招提寺の芝草も
また青々と伸び初めて
來たことだろう

露を含んだ　若草山の曙、
風もないのに　はらはらと散る
枝垂れ櫻の根もとに
綠の芝生を　しとれにして
暖い春の日に照らされながら
うつらうつらと　鹿の眠る
春日社頭の眞晝、
をばしまの　あたりに
衣かついだ上臈の
ほのかにも　現れそうな
三月堂の夕暮、
思ひ出の多い　古い都に
永い眠につき給ふた
御姥様の御靈は
今、何處
あゝ、マッチ工場の托鉢に
ほつと疲れた　私を
屋根裏二階の小窓から
今宵も慰めて下さる
あのお月さまか

——一九二三、三——

（神戸市四番町四丁目屋根裏の天國にて）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

下毛野行脚（つゞき）

松下吉衛

大正十二年四月二十三日　くもり

宇都宮驛に天香さん一行をお出迎する。豫定のごとく午前九時三十二分におつきになつた。天香さん勝淳さん外、數名の婦人と松本兄とが下車なさつて、あとの方はそのまゝ鹿沼の日本痲絲會社へ直行された。

女學校でのお話は午前中のわけ。停車場からは可なりの道のりなので、やむなく人力をかつた。かういふことはほんとに切ないけれど仕方がない。學校にいたれば、御母堂をなくなされて忌引中であり、なほ、お子さんが輕くない御病氣でお臥せりのところを、淸水校長には、わざ〳〵御出校なさつてをつて、何かとお世話くださつたのには恐縮した。

天香さんのお話は、十時すぎから十二時に亘つた。講堂のできがよ程よろしいのでせう、一千餘名の生徒さんをいれて、一番うしろまでもお話がハッキリきかれた。平野さんの尊父、須賀共立裁縫女學校長、新聞社の方々も參聽せられた。お話後、天香さんは記者方の質問に應じなさつた。

須賀さんは、午後、自分の學校でも是非お話をといふことでしたが、時間の都合上お斷りせねばならなかつたのは心苦しかつた。私の中學時代の舊師關口石之助先生や同窓鈴木誠一郎先生に、はからずも、お會ひできたことは望外の幸であつた。

汽車時間が迫つてゐたので、平野さん御一家のお招ぎにも應ずること叶はず、又しても一同鶴田驛に人力を驅らねばならなかつたには、生徒さん方につまらぬつまづきを與へはしまいかと、しんがりの車にのせていたゞきながら、私はハラ〳〵させられ、校門をくゞる時、心からおわびせずにゐられなかつた。理窟は何とでもつく。私には、人間が人間をひつぱることが、どうも、具合が惡るすぎるのです。

鹿沼の日本痲絲會社へ着いたら、先發の方の外、日光から山田正雄さん、福島から加藤さん母子が見えてゐて、それ〴〵、ガラス窓ふき、蒲團ごしらへ、庭掃除等托鉢にい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

そしんでゐられた。

一同、伊藤猛兄の御案内で互敬舍に憩はしてもらふ。こゝは纖維工業に特殊な興味をもたれ異常な研究を積まれてゐる伊藤學士年來の懇禱所であり、第三宣光社の典型的（ティピカル）なものとして、同人間では少なからぬ期待をもつてむかへてゐるところ。互敬舍とは會社が伊藤兄に隨喜して先年建立せる道場、その命名は天香さんを煩はしたものである。伊藤兄の外、二三の同人が互敬舍には斷えずゐられる筈。

天香さんは、こゝへは、此度が二回目である。初めての時も私はお供した。炊事場や屑整理場で何かお手傳のまねごとをしたやうに覺えてゐる。今日は、夕食前男工さんに對し、夕食後女工さんに對し、天香さんのお話がある筈。私は明日栃木でしていたゞくお話の準備があるので、夕方の汽車で立たせてもらつた。山田さんも日光へお歸りになつた。

四月二十四日　くもり

私が初めて郷里で路頭に立つたのは、大正七年六月と覺えてゐる。天香さんはよほど御心配だつたと見え、秋田のお歸りに時間を無理におくりあはせなさつて、小山驛で一列車だけおくらせ、僅かな時間を、栃木驛に私をお呼びになり、懇ろにいろ〳〵たづねられた上に、單衣と笠とを御供養くださつた。それから幾度お出でだつたでせう。ある時はおひとりで、ある時は同人方をおつれになつて、ある時は勝淳さんとお二人で、またある時は中桐先生とおそろひで。しかし演壇にたゝれたのは、去年の秋、黎明會主催の講演會のときだけであつた。その折、こゝの高等女學校から竹本先生を通して、ぜひ天香さんに講演をといふお求めがあつたのであるが、日程の變更がどうしても出來ず、不本意ながらお斷りしたのであつた。今日、鹿沼からこゝへ天香さんにお出でを願ふやうになつたのは、その時の責ふさぎに外ならない。

先發に勝淳さん初め平岡、梶浦、大上、加藤の諸姉が朝九時の汽車でお見えになつた。皆、托鉢をなさりたいといふので、勝淳さんは、母も舊知の間でありお會ひするのを樂しみに待つてゐるものですから、まつすぐ、私共へお出でを願ひ、他の四人の方は、女學校への道を御案内しながら、平岡姉を海老澤さんへ、梶浦姉を長澤さんへ、大上姉加藤姉を女學校へ、それ〴〵、奉仕させていたゞくやうお賴み申した。托鉢の旅には不慣れな方もゐられるので、ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

とりぼつちおはなしすることは、少々心もとなく覺えたのであるが、所望にまかせて、かう取斗らはせてもらつた。

天香さんは、午後一時、栃木驛へおつきになる筈なので黎明會關係の方や扇田兄などお出迎へ申した。學校からも誰かまゐらうといふことであつたが強ひてお斷りした。私は學校でお待ちした。私の一家は、勝淳さんにお留守居を願つて、年寄子供とも一人のこらず參聽させていたゞくことにした。豫定の時刻になつても、天香さんのお姿がなか〳〵お見えにならないので、一汽車お遲れにでもなりはしまいかと、ずゐぶん、氣をもませられた。生徒さんはもう講堂に着席なさつてゐる。私は玄關と校門との間を幾度か往復した。やがて、大勢と語らひながら、こちらに歩いて來られるお姿が見えたのでホツとした。茨城縣下館町の幼稚園に奉仕なさつてゐる中島姉も一所に來られた。

この校長さんは最近おかはりになつたのであるが、天香さんは、舊校長には私共で先年お訪ねをうけたことがあり、新任の石井校長とは、數日前大田原中學で御講演の折たま〳〵石井先生の告別式が行はれ同先生が見えてゐられたので（石井先生は長らく大田原中學の教頭をお勤めであつた。）初對面の御挨拶は既にすんでゐるわけ。今夜、古河町修養會での講演を控へ、また、時間の繰合せがついたら栃木農學校からのお求めにも應ぜねばならなくなつてゐるので、天香さんは、學校におつきになるが早いか、茶もソコ〳〵、石井校長の御紹介について、壇上にのぼられた。いづこも同じこと、生徒さんの中には、天香さんの飾を落した異樣な風にびつくりなさつた顏色がソチコチに見られた。それでも、話が進むにつれて、セオリーやイズムぬきのありのまゝな現在の生きた事實が語られ、それがまだ世の中を知らない若い靈にもドコかヒシと響くふしがあるものと見えて、水をうつたやうになつて聽いてくれた。天香さんのお話しぶりも、初めての土地とはちがつて、しんみりしてをつた。中學校小學校の先生方や佐伯女學院の院主生徒さん達も聽きに來られてゐた。こゝでのお話に豫定以上の時間を費したので、農學校の方は已むなくお斷りすることにした。

幾分のお役に立たうかと、講演後、同人の機關雜誌『光』を所望の方にお頒ちした。宇都宮の女學校でもさうであつたが、こゝでもずゐぶんお持ちかへりになつてくださつた。

種子はおろされた
よく芽生えよ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ヴァージン、ソイルに

から祈りながらも、古河行の汽車時間が迫つて來たので、後始末を黎明會の方々にお頼みし、校長さん先生方への挨拶もソコ〳〵に、栃木驛へ同人は急いだ。竹本先生に間道を御案内うけたのは恐縮であつた。

四時二十七分栃木驛發、五時二十三分古河驛着。

天香さん勝淳さん扇田さんの外は皆東京へ直行なさつた鹿沼の日本麻絲には、男子の同人が數名、あと一週間ほど托鉢を續けられる筈である。

開會に少し間があるので、天香さん方を一ト先づ私の舊知中内啓三郎君方におつれ申した。啓三郎君はあひにく已むを得ない商用で出掛けられてお留守であつたが、御兩親から妻君まで一家をあげての歡待にはお禮の申上げやうもなかつた。學生時代には東京の往來によくお邪魔しては我がまゝをしたものだが、今、坊主ともつかず書生ともつかず、自分自身にも正體のわからぬ、こんな乞食姿で、寄せていたゞかうとは、思ひもよらなかつた。變つたのは私の方ばかりではない。こなたも當時は製絲業をなさつてゐられたのであるが、今はハタヤさんに商賣がへをせられてゐる。

やがて、修養會幹事熊木榮太郎さん高橋武雄さんがお見えになつた。私にも是非話せとのことなので、とにかく、天香さんの『一燈園生活』と共に『所有たない賣らない生活』といふ演題をおまはしゝた。

會場は小學校。七時すぎ開會。佐藤幹事さんの爽かな開會のお言葉の後をうけて、私がすぐ話させられたのであるが、かうした場合、時とするとどうといふことなしに、カラ滅却してしまつて想ふこころの半ばもよく言ひ得ない私のぎごちないしやべり方は、ずゐぶんきゝづらかつたらうと、皆さんにすまない感じがした。

それでも、天香さんが聽衆の方々にヒッタリあつたお話を後でしてくださつたので、ホッとした。聽衆は、雨がチラ〳〵降つてゐたにも拘らず幾百を數へ、かうした眞面目な會合としては空前の出であるといつて、幹事さん方は喜んでゐられた。

天香さんは散會後たゞちに勝淳さんと共に、急電のあつた福島縣下の某地へ向け、一泊の豫定で夜行列車をおこりになる筈であつたが、こゝ數日間といふもの連日連夜の御奉仕に勢ひ無理をなさつたからでせう、少しお疲れがヒドすぎるやうなので、今晩は、こゝにおとめ申すことにした。宿は熊木さんで惠まれた。過分のお取扱にはこゝでも少なからず恐縮した。修養會幹事諸君と暫らく懇談の後、しめやかにふる雨の音をきゝながら床に就かせてもらつた、人みなの平安を祈りたい氣分にあふれて。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園日記抄

藤田淡如

○四月十六日　はれ
お天氣よし。あるだけの蒲團を外へ持出して日光に曝す約半年餘、神戸の直木マッチ工場に托鉢してゐられた小林恭堂さん御歸園。

○同十七日　くもり
折々雨ふる。里芋植う。

○同十八日　くもり
きのふの雨に櫻はすつかり散つて了つた。軟かい若葉の色が、早や初夏らしい氣分をそゝる。福井の渡邊忠さん歸省さる。

○同十九日　あめつよし
丁度昨年の今時分、この生活に入つて、皆と一緒に托鉢してゐられた朝鮮の許範さんが、今度またお妹さんをつれてお見えになり、徹底的に此生活を行ぜらるゝことゝ成つた。

○同二十日　はれ
四國方面に永らく托鉢してゐられた大野東香さん、内田ひろ子さんは鳥取から歸園せられた。
東京から天香さんのお便りがあつた。昨日は榮花園に、一昨日は横濱一燈園に寄せていたゞきましたとある。

○四月二十一日　くもり
花園から園ちやんがやつて來て、他の子供と一緒に戯れ頗る賑やかである。

○四月二十二日　はれ
昨年十一月頃から引續き神戸の鐘紡會社にゐられた野木さん吉田さん。それから縮行脚中の小林古陵さん、相前後して何れも御歸園なさる。

○四月二十三日　あめ
けふも亦、天香さんからお便りがあつた。
――『……昨日十四人づれにて西那須野の雲照寺へ參詣、戒光老師の歡待を受けて一宿、道友會の御連中と、目白の老師など寄つどひ茶話會を催し候。今日は宇都宮、鹿沼。明日は栃木、古河。明後日は福島。二十七日東京入の豫定云々……』

○四月二十四日　あめ
智恩院のお坊さん拾名ばかり、お遊びに見えた。井辻純吉さん四日市より御歸園。久留米の酒井忠男さん一時退園せらるゝことに成つた。

○四月二十六日　はれ
西國巡禮中の安保さんと赤木さん、紀三井寺へ御參詣のよし。午後、大學病院の戸出先生お見えになり、園の婦人患者を御診察下さる。

○四月二十七日　はれ
夜遲く立山不退さんが岐阜からお見えになる。翌月早々當番をおつとめ下さる筈。

○四月二十八日　はれ
此間中、天香さんにお供して御旅行中であつた勝淳さんが一足さきに東京からお歸りになつた。お土産にといつて鈴蘭をことづけて下さつた。早速、花畠へ植付ける。
戸出先生またお越しになり、今日は特に園の食料について御調べ下さつた。

○四月三十日　はれ
加藤しげ子さん、明石うた子さん新しく御入園。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

良いお天氣なので、婦人連中、お洗濯をしたり、夜具を整理したりする。

宇戸つる枝さん長濱より。唐澤みつゑさん鳥取より歸園せらる。

○五月一日　はれ

今日から愈々立山さんが海野さんに代つて當番をおつとめ下さる。そして當番の用務も近頃めつきり增して來たので、折柄歸園中の古陵さんにも、暫らくそのお手傳を賴むことに成つた。

北海道廳視學宮城仲助さん外四五名お客さんが見えた。

○五月二日　はれ

先月中頃から、東京、栃木方面へ御旅行中であつた天香さんがお歸りになつたそうである。新舊當番はじめ四五名打つれて早速、衣棚へお伺へする。

○五月三日　あめ

婦人部屋では病人さんが五六人休んでゐられる。夕方、西川慧隆さんが突然その順禮姿を現はし、暫らく杖を停めらる。

○五月四日　はれ

夜、天香さんお見えになる。六十人ばかりも集つたらう久々ぶり御機嫌のよいお顏を拜し、興味の深いお話しを承つて、一同歡喜する。それがすむと、臺灣の松本安藏さんからのお供養で、おぜんざいをいたゞく。

○五月五日　はれ

茲二ヶ月間當番として御苦勞を願つた海野鏡圓さん、今日いよ〳〵御母堂と御一緒に鄉里岐阜の方へお歸りになつた。今晚も亦、天香さんお見えに成り、此生活の最もつゝましやかなるべきことを諄々としてお話しになつた。一同襟を正し、肅然として聽く。

今日のお客さんは山梨師範の生徒さん四十名、精善女學校の生徒さん十名ばかり。

○五月七日　はれ

南瓜の苗を移植する。大島ひろしさん西ノ宮より歸る。

○五月九日　はれ

裏山に蟬が鳴出した、だいぶん夏らしくなつて來た。

島根縣荒島一燈園の大塚秀雄さんが、いろ〳〵の用務を帶びて御來園。すぐ神戶へ赴くといふ。

○五月十三日　はれ

園の畠には可愛らしい苺實が三つ四つ青い葉蔭から覗いてゐる。白菜も具合よく育つた。里芋も辛と芽を出しかけた。今日は好いお天氣なので、女部屋、物置など大掃除をやらかす。小林泰堂さん御歸園。

○五月十五日　はれ

東京から八田勝三さんがお見えに成つた。丁度二年ぶりである。東京に於ける同人の動靜その他いろ〳〵有益なお話を承る。

○五月十六日　はれ

栃木縣大田原中學の先生さん生徒さん六名お見えになる橫濱一燈園の植松さん。それから市內托鉢中の水置茂太さん托鉢者の加勢を賴みに來られた。

天香さんは茲二三日前から少々御氣分がお惡いように承る。今晚も御來園下さる豫定であつたが、そうした譯でお見えに成らず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

早稻田大學教授 中桐確太郎著

予の戀愛觀

第十六版

定價金八拾錢

郵送料拾一錢

此書の特色は現代の戀愛觀を分類批評し、田中王堂、倉田百三、厨川白村、杉森孝次郎、有島武郎、其他諸氏の所說以外、更に獨特の一新生面を開ける所にあり。著者曰く『未だ曾て、之と全然同一の所說に接したること無きが如し』と、又曰く『方今大に亂れつゝある戀愛に關する思想の整理に資することを得ん』と、以て此書の價値と、公刊の理由とを知ることを得べし。

發行所 東京京橋電話局前 小西書店

振替東京四〇〇〇番

電話京橋二二〇三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

一燈園 西田天香著

◆

定價貳圓廿錢
書留料拾八錢

四六版黒布表裝四百頁

新刊

托鉢行願

苦惱に滿てる人生混沌として闇き社會を救はんがため二十年の星霜を懺悔奉仕の托鉢に送りたる天香師が虔しやかに世に贈るこの尊き我等の福音書を見よ

師の日常生活は、人の家に入りて下駄を揃へ庭を掃き便所を潔め納屋を整理する、一見殊更に奇異を裝ふ如く見ゆれど、然らず、一切の我執に放れ心欲を擲ち、不二の光明によつて復活新生する。世間一切の罪惡何人がその責を脱るゝを得べきとして、懺悔の心からなる十字街頭の奉仕をする。一燈園に心の庵を結ぶと雖も別に一宗を立てるにあらず單に一宗に偏るにあらず古今聖者の光を仰ぎ徳を頌し、その遺されたる事業――人間苦世界苦救濟の願を成就せんとするものである。この祈願に即した實生活――もたず、うらずして人天のくやうに生きる天香師の全姿態は本書の殘らず盡す所である。

相馬御風著

大愚良寛

越後の隱聖良寛和尚の人格と藝術はその沒後百年に近き今日突如として異常の光輝を認められた著者は良寛研究者の第一人者として識者に知らる。

定價二圓七十錢
書留送料十八錢

東京日本橋通
振替一六一七

春陽堂

電話本局五一
四二一〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN